

2025年度 各取組報告

2026年03月23日

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）
デジタル基盤センター デジタルエンジニアリング部
データスペースグループ

- ◆ 議事次第・出席者確認（5分）
- ◆ 取組の総括（5分）
- ◆ 各取組報告（60分）
 - デジタルエコシステム官民協議会設立（5分）
 - データマネジメント読本・実務者向けガイド（5分）
 - データマチュリティアセスメント（5分）
 - データ品質管理ツール（5分）
 - データ利活用・データスペースガイドブック（AI利活用版）（5分）
 - GIF（5分）
 - データ辞書（5分）
 - 普及展開状況（5分）
 - 委員からのご意見
- ◆ データ戦略に関する最新動向（40分）
 - 概況報告
 - 委員からのご意見
- ◆ クロージング（5分）

取組の総括

デジタル基盤センターにおけるデータスペース事業

未来のデジタル社会に必須の
データスペースとそれを支えるデジタル基盤の作成

データ環境推進委員会の目的

日本のデータ標準の在り方について、中長期的な視野に立ち、グローバルな視点からインターオペラビリティを確保する仕組みを確立する。

データスペース事業の2025年度の目的

- データスペース、データガバナンスを中心として、実践のための**国内外のコンポーネントの整備・体系化**を行う。
主ターゲット：経営者/CDO、**事業/IT部門長**
- **実務に近いGIFデータモデル**などを提供、利用しやすくする。
主ターゲット：データ設計やデータ活用に携わる実務者

データ環境推進委員会：2025年度で終了

当初の目的から拡大してきており、将来性を見込んだ役割ができる組織体が必要になったため

2025年度データスペース事業の主要取組

- **デジタルエコシステム官民協議会（JDEP）設立**
事務局として協議会の運営をサポートする。
- **データマネジメント読本・実務者向けガイド**
経営者や実務者が必要とするデータマネジメント・利活用に関するナレッジを体系化して公開する。
- **データマチュリティアセスメント**
企業がデータの重要性を認識し、段階的にデータマチュリティを向上させるためのナレッジやツールを体系化して公開する。
- **データ品質管理ツール**
データ品質の評価・改善のためのガイドブックを改訂し、評価ツールを公表する。
- **データ利活用・データスペースガイドブック**
データやデータスペースの利活用における主たるAI利活用シーンを整理しガイドブックを改訂する。
- **GIF**
データ流通のデータ相互運用性を向上させるため、共通モデルを整備・拡充し公開する。
- **データ辞書**
データ品質を向上させ、データ利活用の費用対効果を高めるため、データ辞書を体系的に定義し、機械可読性を高めて公開する。

補足) FY25 主要実績

取組項目	アウトカム	アウトプット	FY25取組の結果、分かった課題
デジタルエコシステム官民協議会 設立	「官民連携により、データ連携・利活用を促進するエコシステムを形成する」という協議会の目的のもと、実現を後押しするため、事務局として協議会運営を支え、官民連携による取り組みに貢献した。	<ul style="list-style-type: none"> CEATEC2025オープングレセプションにおける、平デジタル大臣および東原経団連副議長による本協議会の活動紹介内容を掲載した。 CEATEC2025における、JEITAと本協議会が共催するセッション『産業データスペース構築に向けた課題と今後の展望』の内容を掲載した。 幹事会開催内容を掲載した。 入会等の各種問合せに対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本ではデジタル化や関連技術が進展しているが、データやサービスを円滑につなぐためのエコシステムの構築が十分とは言えず、より一層のユースケースの創出・蓄積が必要となっている。
データマネジメント読本・ 実務者向けガイド	情報発信を通じて、データそのものの価値やデータ活用の重要性の認識を高める機会を提供したことで、データ利活用・データマネジメントを担う人材育成の促進や、個人のデータリテラシーと組織のデータマチュリティ（組織のデータ利活用能力）の向上に貢献した。	企業等がデータ利活用・データマネジメント人材を育成し、個人のデータリテラシーと組織のデータマチュリティを高められるようにするため、経営者や実務者が必要とするナレッジを体系化して公開した。データリテラシーに関しては実務者向けのナレッジを体系化し公開した。	<ul style="list-style-type: none"> AIをはじめとする新技術が普及しつつある一方で、データ利活用やデータマネジメントの重要性についての認知は依然として十分ではなく、理解の広がりが限定的である。 データ利活用による価値創出や組織変革の重要性が十分に浸透しておらず、全社的な意識醸成が進んでいない。 今後は、データ利活用に関する普及・啓発を一層強化し、組織全体での理解向上と取り組みの深化を図ることが必要である。

補足) FY25 主要実績

取組項目	アウトカム	アウトプット	FY25取組の結果、分かった課題
データマチュリティアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> データマチュリティの必要性和重要性、継続的な評価・分析・改善を行うという考え方の普及を推進し、各組織が段階的にデータマチュリティを向上可能な土台ができた。 データマチュリティの向上に伴い、組織内でのデータ利活用が一層促進され、新たなサービス創出や業務変革につながる基盤が整備されるとともに、DX（デジタルトランスフォーメーション）を加速させるための素地を形成した。 	<ul style="list-style-type: none"> データマチュリティアセスメント解説書 日本版データマチュリティアセスメントa版 	<ul style="list-style-type: none"> データ利活用の必要性は徐々に認知されているものの、その理解が専門家や担当者に限定され、組織全体で取り組むべき事項として十分に共有されていない。 コンセプト検証では、「共感できる」との評価やまた前向きな意見が多く得られた一方で、データマチュリティ向上のメリットや必要性、ビジネスへの効果の説明方法等に課題があると分かり、納得感を高める余地があることが明らかになった。
データ品質管理ツール	<ul style="list-style-type: none"> ガイド利用者は、国際的なベストプラクティスに係る多くの資料を一から調査することなく、実践しやすい形で参照できるようになった。 AISI内のデータ品質SWGとの連携により、データ品質を検討できる体制を立ち上げた。 チェックリストによって現状を把握し、改善向上ができるようになることを狙う（FY26 5月公開予定）。 	<ul style="list-style-type: none"> データ品質マネジメントガイドブック v1.01 データ品質マネジメントチェックリスト a版 データ品質サブワーキンググループ活動報告書（検証結果含む） 	<ul style="list-style-type: none"> データ品質の文脈依存性が高く、実務適用のためにはユースケース別のガイドが必要である。 ドキュメントベースでは実行性に限界があり、ツールによるサポートが必要である。 データ品質とアウトカムの間に距離があり、ROIの可視化・説明が難しい。 AIの進展が早く、追従するための仕組みや体制が必要である。

補足) FY25 主要実績

取組項目	アウトカム	アウトプット	FY25取組の結果、分かった課題
データ利活用・データスペースガイドブック（AI利活用版）	当該ガイドブックの想定読者が、データおよびデータスペース利活用の際に、AIも合わせて利活用するケース特有の考慮点や変更点を理解・想像できるようになることを狙う。	データ利活用・データスペースガイドブック（AI利活用版）の作成および公開。	<ul style="list-style-type: none"> ・AIを組み合わせて利活用する際の特有の考慮点については示したが、実装のためのより詳細な手順を示すガイドが必要。 ・データスペース利活用のユースケースの整備が必要。
GIF	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメント（データ項目辞書、実装データモデル、ガイドブック等）の充実により、標準に基づくデータモデルの設計・実装を行いやすくなった。 ・海外事例と比較する調査により、政府・行政が取るべき施策を特定し、戦略立案の根拠が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実装データモデル（教育・防災） ※デジタル庁 ・データ項目辞書 海外データ戦略調査 ※デジタル庁 ・スマートシティリファレンスアーキテクチャ v5 ※内閣府 ・各種Markdown資料、防災概念・論理モデル例 	<ul style="list-style-type: none"> ・マシンリーダブルな標準体系フレームの整備が必要。 ・人とマシンが理解・連携できる辞書・知識基盤が必要。 ・AIが参照する基盤としてのドキュメント整備が必要。 ・AI基盤のフレームワークとなる対応が必要。

補足) FY25 主要実績

取組項目	アウトカム	アウトプット	FY25取組の結果、分かった課題
データ辞書 (FY26公開予定)	※FY26予定 <ul style="list-style-type: none"> 日本語版オントロジーを作成するための基盤整備が推進される。 同義語、類似語に係るJSON形式の学習データ（動詞・形容詞・名詞といった日本語と、それらの詳細な説明）が拡充される。オープンな日本語辞書データの利活用がしやすくなる。 国際的なデータの相互運用性の実現に寄与する。 ナレッジグラフの整備に向け、普及展開に利用可能な素材が拡充される。 	※FY26予定 <ul style="list-style-type: none"> ipadic、同義語類義語に対応した辞書の整備（IPALのJSON化含む） ナレッジグラフの作成と可視化の検討（Neo4JなどのグラフDBによる可視化） 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の文化、倫理でAI利活用をできるようにするための日本語のデータセットの整備。 各領域（産業など）のAI利活用の基本となるデータを作成するために必要な知識基盤にあたる、ナレッジグラフやオントロジーの作成支援技術の整備。 日本語のナレッジグラフやオントロジーを作成するために必要な同義語、類似語での分かち書きをできるようにするため、ipadic、ipadicの同義語・類語の辞書の整備。
普及展開状況	<ul style="list-style-type: none"> データ相互運用性やインターオペラビリティフレームワークのキーワードをイベント聴講者へ周知できた。 複数の講演での情報発信に加え、総括としてデータ未来会議にて146名に当グループの活動を発信し、参加者がデータスペースに関する最新動向や今後の展望を認識する機会を得た。 データ未来会議の開催を通じて東大・DSA・JDMC等との継続的な連携や強化が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種講演資料 ※ただし、公開非公開はイベントに依存。 	<ul style="list-style-type: none"> 予算次第の単年計画になっており、前年度からの計画が困難である。 生成AIなどを駆使し、リキッドコンテンツで、3S(Snackable（食べやすさ）、Shareable（言いたくなる）、Seamless（違和感のなさ）)のエントリー設計が必要。

各取組報告

デジタルエコシステム官民協議会設立



概要	背景	データは新たな価値創造の源泉で極めて重要な要素である。データ連携・利活用の重要性は広く認識されつつあるが、具体的なユースケースの創出は十分ではない。
	内容	データ連携・利活用を促進するエコシステム形成に向けて、官民連携でユースケースを創出するため、関連する取組の支援、データ連携環境の整備、国内外の動向調査・分析及び情報発信等を行う。IPAは幹事組織の一員として、これらが円滑に進むよう運営に携わる。
アウトカム		事務局として協議会運営を支え、官民連携による取り組みをサポートすることで、「官民連携により、データ連携・利活用を促進するエコシステムを形成する」という協議会の目的の実現を後押しする。
成果物		<ul style="list-style-type: none">・CEATEC2025オープングレセプションにおける、平デジタル大臣および東原経団連副議長による本協議会の活動紹介内容を掲載した。・CEATEC2025における、JEITAと本協議会が共催するセッション『産業データスペース構築に向けた課題と今後の展望』の内容を掲載した。・幹事会開催内容を掲載した。・入会等の各種問合せに対応した。

官民協議会のミッション・バリュー定義

Purpose	Mission	Vision	Value
<ul style="list-style-type: none">•データ連携とAI等による自動処理を活用して、人口減少・労働力不足・環境問題等の社会課題を解決し、持続可能で回復力のある社会を実現する	<ul style="list-style-type: none">•信頼を前提とし、データ連携とAI等による自動処理の取組を生み出すデジタルエコシステムの形成を、官民でVisionを共有する場を提供し促進する	<ul style="list-style-type: none">•データ駆動型社会・自動化社会の実現•経済成長の実現•持続可能で回復力のある社会•国際的なリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none">•信頼と安全性•イノベーションと価値創造•包摂性と社会的影響•グローバルリーダーシップ

デジタルエコシステム官民協議会について

1. 名称

名称は、デジタルエコシステム官民協議会（以下「本協議会」という。）とする。

2. 目的

データ連携・利活用 of 取組を生み出すデジタルエコシステムの形成を官民で促進することを目的として活動を行う。

3. 構成

運営のため、幹事会、企画運営委員会及び事務局を設置する。

デジタルエコシステム官民協議会について

4. 会員

本協議会の目的に賛同する事業者団体（私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号）第2条第2項に規定する事業者団体のことをいう。）等その他これに準ずる組織、関係府省庁等（以下総称して「会員」という。）は、本協議会への入会を希望する場合、事務局の指定する方法で申し込むものとし、幹事会がこれを承認した場合、会員となるものとする。

5. 幹事会

幹事会は、議長及び議長が指名した幹事をもって構成する。

6. 企画運営委員会

企画運営委員会は、委員長及び委員長が指名した委員をもって構成する。

7. 事務局

事務局は、会員の協力を得て、デジタル庁、日本経済団体連合会及び情報処理推進機構が共同で行う。

データマネジメント読本・実務者向けガイド

概要	背景	データは新たな価値創造の源泉であり、極めて重要な要素である。しかし、データそのものの重要性に対する理解は依然として低い状況である。また、データを取り巻く環境が変化しており、データマネジメントの対象も広がっているにもかかわらず、その理解も乏しく、データマネジメント人材も不足している。
	内容	データに対する理解を深め、データのライフサイクルを考慮し、進化するデータマネジメントに対応できるデータマネジメント人材の育成のための情報発信を行う。
アウトカム		情報発信を通じて、データそのものの価値やデータ活用の重要性の認識を高める機会を提供したことで、データ利活用・データマネジメントを担う人材育成の促進や、個人のデータリテラシーと組織のデータマチュリティ（組織のデータ利活用能力）の向上を狙えるようになった。
成果物		企業等が、データ利活用・データマネジメント人材を育成し、個人のデータリテラシーと組織のデータマチュリティを高められるようにするため、経営者や実務者が必要とするナレッジを体系化して公開した。データリテラシーに関しては実務者向けのナレッジを体系化し公開した。

Data Spaces Academy 経営者・CDOの方向け読本

CxO向けにデータを戦略的に利活用するための基礎知識を紹介している。
掲載読本は一例である。詳しくは [Data Spaces Academy](#) を参照。

■データガバナンス読本

データガバナンスとは、データを戦略的に管理・活用するための仕組みやルール、体制のことを指す。データの品質やセキュリティを保ちつつ、誰がどのように使えるかを明確にすることで、ビジネス価値を最大化し、リスクを最小化する取り組みである。^{*1}

■データマチュリティ読本

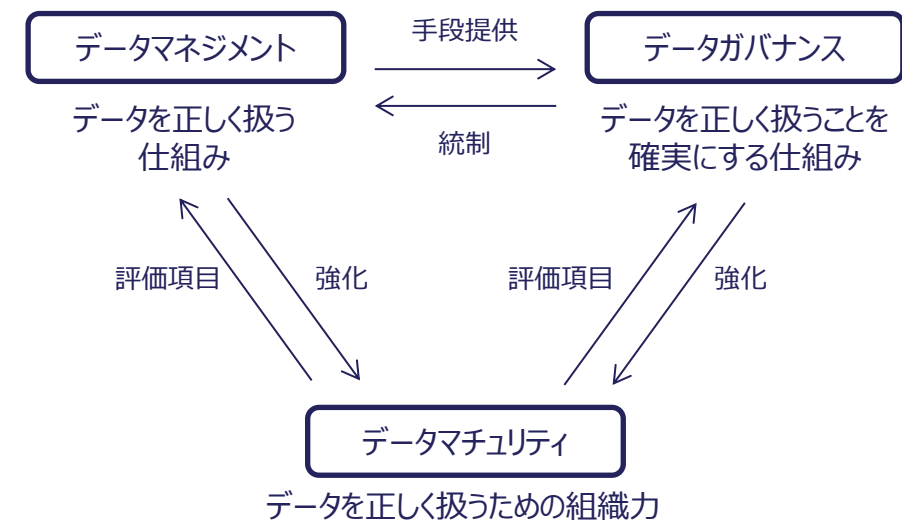
データマチュリティとは、データを使いこなし、データの価値の最大化とリスクの最小化を持続的に行い、組織が最大のパフォーマンスを出しているのかどうかを、明確化し、改善するための考え方である。^{*2}

■データマネジメント読本

データマネジメントとは、組織が保有するあらゆるデータを効率的に、収集・整理・保存・共有・分析・活用するための体系的なプロセス管理を指す。これにより、ビジネスの意思決定を支援し、競争優位性を確保することが可能になる。^{*3}



データを扱う仕組みの関係性



- *1 出典：情報処理推進機構,「[信頼できるパートナーになるためのデータガバナンス読本](#)」
- *2 出典：情報処理推進機構,「[データ経営の総合力を高めるデータマチュリティ読本](#)」
- *3 出典：情報処理推進機構,「[データを戦略的に使いこなすためのデータマネジメント読本](#)」

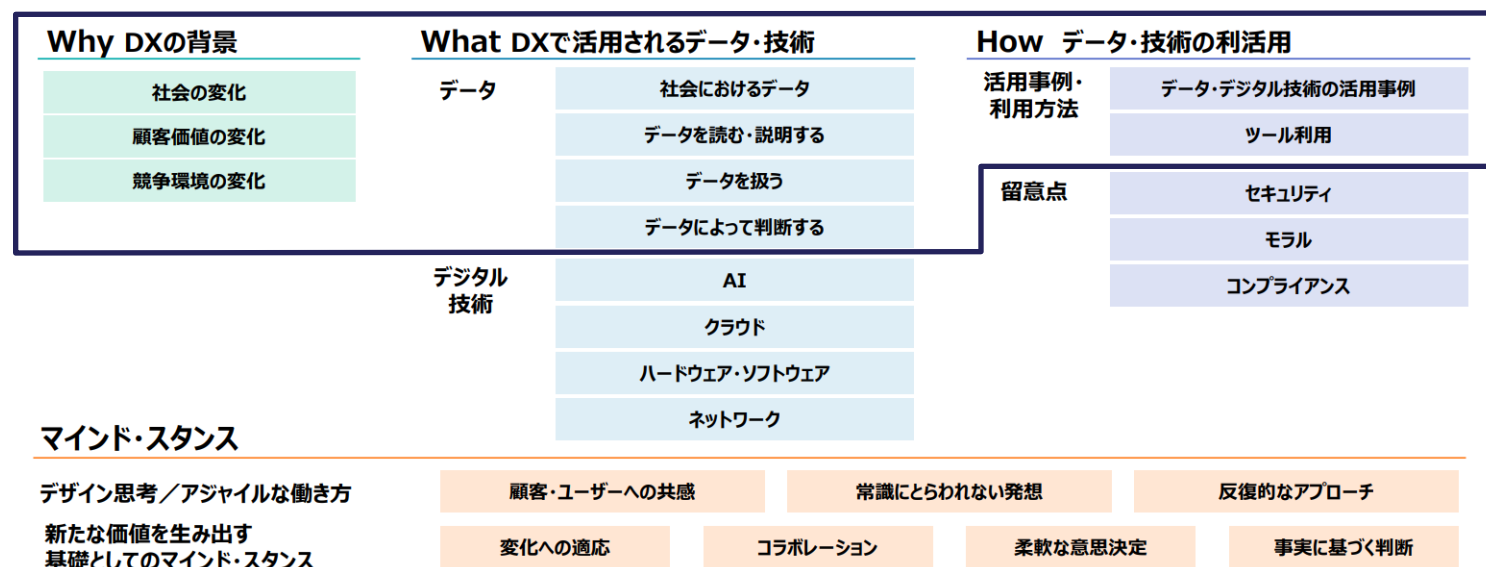
インターオペラビリティに関する読本も公開予定

Data Spaces Academy 実務に携わる方

実務を行う方向けに、組織の戦略を実現するための実践的な方法を紹介している。
掲載内容は一例である。詳しくは [Data Spaces Academy](#) を参照。

■データリテラシーガイドブック

データリテラシーガイドブックは、データ利活用に必要なデータリテラシーをDXリテラシー標準の枠組みでまとめた資料である。
GIFアカデミーで公開されていた「DXで活用されるデータ・技術 - データ」の項目をアップデート、「DXの背景」と「データ・技術の利活用 - 活用事例・利用方法」の項目を追加した。対象範囲は下記である。



データマチュリティアセスメント

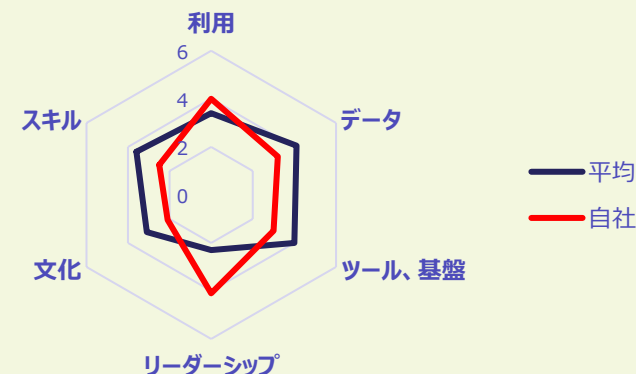
概要	背景	各国はデジタル政府の実現に向けて取り組みを進め、企業ではデータ利活用の取り組みが進んでいる。一方で、日本国内において、組織的のデータ利活用能力の範囲や深度を客観的に評価する指標が十分に普及しているとは言えず、またその必要性和重要性が十分に理解されていない。
	内容	日本版組織のデータ利活用能力評価指標（データマチュリティアセスメント指標）の提供により、戦略立案の基盤となる現状分析と、定期的な評価・進捗管理を可能にし、変革の継続的な推進と、組織能力・データ利活用力の向上を図る。日本版データマチュリティアセスメント指標作成に向けて、ガイドブック、アセスメントツール、自己診断ツールを開発する。今年度は国内外の関連指標を参考にするとともに、日本固有の課題を踏まえながら、アセスメントツールα版を策定。また策定の過程でコンセプト検証を実施し、その検証を通じて有益かつ貴重なフィードバックを得た。
アウトカム		<ul style="list-style-type: none">データマチュリティの必要性和重要性、継続的な評価・分析・改善を行うという考え方の普及を推進し、各組織が段階的にデータマチュリティを向上可能な土台ができた。データマチュリティの向上に伴い、組織内でのデータ利活用が一層促進され、新たなサービス創出や業務変革につながる基盤が整備されるとともに、DX（デジタルトランスフォーメーション）を加速させるための素地を形成した。
成果物		データマチュリティアセスメント解説書、日本版データマチュリティアセスメントツールα版

データマチュリティとは

データを使いこなし、データの価値の最大化とリスクの最小化を持続的に行えているか、組織が最大のパフォーマンスを発揮できているかを明確化し、改善していくための考え方

データマチュリティアセスメントのイメージ

組織の現状を分析し、強みと弱みを正確に把握することで、自社戦略の優先順位に沿った対策を講じられるようになる



補足 データマチュリティアセスメント解説書 抜粋

主旨

- 「データマチュリティアセスメント 解説書」は、組織のデータ活用能力を伸ばす考え方（データマチュリティ）に基づき評価するためのフレームワークやツールについて調査し、一部は日本語に仮訳したものです。
- これらのフレームワークやツールは政府関係組織に適用することを念頭に開発されたものも含まれますが、その内容は企業にとっても参考になるものです。
- 本書では、特に英国（イギリス）政府、豪州（オーストラリア）政府が公開しているアセスメントフレームワークやツールを題材に日本語に仮訳しながら、比較・考察しました。

本ドキュメントの構成



解説書（本書）



（別紙1）
英国政府データマチュリティ
アセスメント日本語仮訳

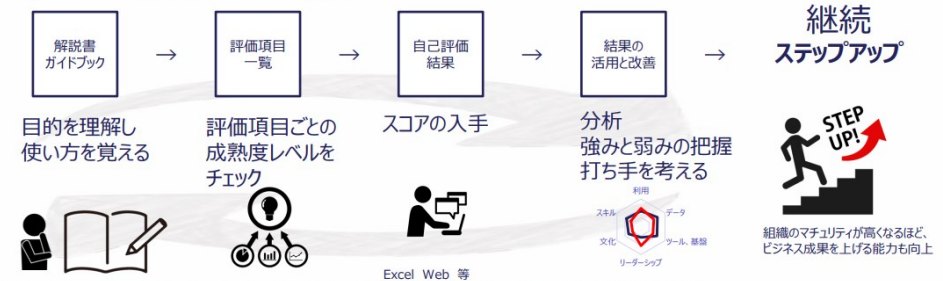


（別紙2）
豪州政府データマチュリティ
アセスメント日本語仮訳

参考：マチュリティアセスメントツールとは

- 本書では、「減点法ではなく、ステップごとの目標レベルを定め、目標に対し、現在どこに位置しているのか、次に何をやるべきかを見定められる形で成熟度を測るという評価方法」*1と定義します。

マチュリティアセスメントツールの使い方



*1 デジタル社会推進実践ガイドブック DS-468-1 データ品質管理ガイドブック（2022年（令和4年）3月31日、デジタル庁）P10、2.2 評価方法 より

データマチュリティアセスメント解説書の主旨とマチュリティアセスメントツールの概要。
出典：情報処理推進機構,「データマチュリティアセスメント 解説書」

補足 データマチュリティアセスメント解説書 抜粋

英国データマチュリティアセスメントの主旨

◆ 開発・提供背景

英国政府のデータ利用を改善するという政府のマニフェスト公約に基づく、国家データ戦略「政府がデータに関して行う行動の枠組み」の中で、政府向けのデータマチュリティーモデル作成が表明されました。
この表明を受け、政府向けのデータマチュリティーモデルが英国政府のGovernment Digital Service (GDS) と Central Digital and Data Office (CDDO) から公開されました。このモデルは、Data Orchard社のデータマチュリティーフレームワークを基に改良された政府機関および公共部門向けの自己評価フレームワークです。

◆ 目的

英国の全ての政府機関および公共部門が、より優れた公共サービスの提供、より効果的な業務の遂行、そして政策目標を達成するために、自組織のデータ活用能力、有効性、そして優先事項を達成するための準備状況を、包括的かつ詳細に把握することができます。
英国政府の「機能標準GovS 005: デジタル」にも関連しており、政府におけるデジタル、データ、テクノロジーの計画、開発、提供、管理にも適用されています。

15

英国データマチュリティアセスメントの構成

◆ 概要説明資料

データマチュリティアセスメントの目的、メリット、評価項目を構成する10のトピック、6つのテーマ、5つのマチュリティレベル等が解説されています。

◆ 自己評価ツール（評価項目とマチュリティレベルの解説資料）

データマチュリティアセスメントを実施時に、各評価項目における各段階のマチュリティレベルの基準が解説されています。評価項目ごとに自組織の現段階のマチュリティレベルを選びます。

◆ 自己評価算出サポート

自組織の状態を入力すると自己評価の結果が算出される表計算ツールが提供されています。



16

英国データマチュリティアセスメントの項目概要

英国データマチュリティアセスメントのフレームワークは、データ環境の体系的なレビューを可能にするように構成されています。

トピックとテーマの評価項目の関係イメージ

	テーマ					
	利用	データ	リーダーシップ	文化	ツール	スキル
他者との連携	-	-	-	レベル1～5	-	レベル1～5
適切なデータスキルと知識	レベル1～5	レベル1～5	レベル1～5	レベル1～5	-	レベル1～5
適切なシステム	-	-	レベル1～5	-	レベル1～5	-
保有データの把握	-	レベル1～5	-	-	-	-
データに基づいた意思決定	レベル1～5	-	レベル1～5	-	-	-
倫理的なデータの管理と利用	-	レベル1～5	レベル1～5	レベル1～5	レベル1～5	レベル1～5
データ管理	-	レベル1～5	レベル1～5	レベル1～5	-	-
データ保護	-	レベル1～5	-	レベル1～5	レベル1～5	レベル1～5
データ戦略の設定	レベル1～5	レベル1～5	レベル1～5	レベル1～5	-	-
データに関する責任	-	レベル1～5	レベル1～5	レベル1～5	レベル1～5	レベル1～5

※継続的に評価し続けることで経年変化の追跡が可能。全項目が評価の対象ではない。

17

データマチュリティアセスメント解説書で取り上げている英国データマチュリティアセスメントの概要。

出典：情報処理推進機構、「[データマチュリティアセスメント 解説書](#)」

データ品質管理ツール

概要

背景

AIの性能や安全性の基盤となるデータ品質の管理手法の確立が急務である。データ品質管理は既存の標準類も存在するが、実務目線での使い方やAI時代の新たな観点の導入が必要である。こうした課題認識のもと、2025年3月に「データ品質マネジメントガイドブック 1.0」を公表した。

内容

IPAがけん引役として推進するAISI事業実証WG／データ品質SWGにおいて、産学官の専門家との議論を通して、実務的なガイド整備、評価ツールの開発・提供、適用検証を進める。今後は適用検証を促進するとともに、自動化ツールの開発、AI Agent等へ対象を拡大する。

アウトカム

- ガイド利用者は、国際的なベストプラクティスに係る多くの資料を一から調査することなく、実践しやすい形で参照できるようになった。
- AISIとの連携の中で事業実施WG内にデータ品質SWGを立ち上げ、データ品質を検討できる体制を構築した。
- チェックリストによって現状を把握し、改善向上ができるようになることを狙う（FY26 5月公開予定）。

成果物

- データ品質マネジメントガイドブック v1.01
- データ品質マネジメントチェックリスト a版
- データ品質サブワーキンググループ活動報告書（検証結果含む）

ガイドブック

Data Quality Management Guidebook

2025-3-31

チェックツール

illustrative

項目	評価基準	評価結果	改善策
データ品質管理の重要性	データ品質管理の重要性を認識している。	認識している。	
データ品質管理の体制	データ品質管理の体制が整備されている。	体制が整備されている。	
データ品質管理のツール	データ品質管理のツールが活用されている。	ツールが活用されている。	
データ品質管理の教育	データ品質管理の教育が行われている。	教育が行われている。	
データ品質管理の改善	データ品質管理の改善が行われている。	改善が行われている。	

国際連携



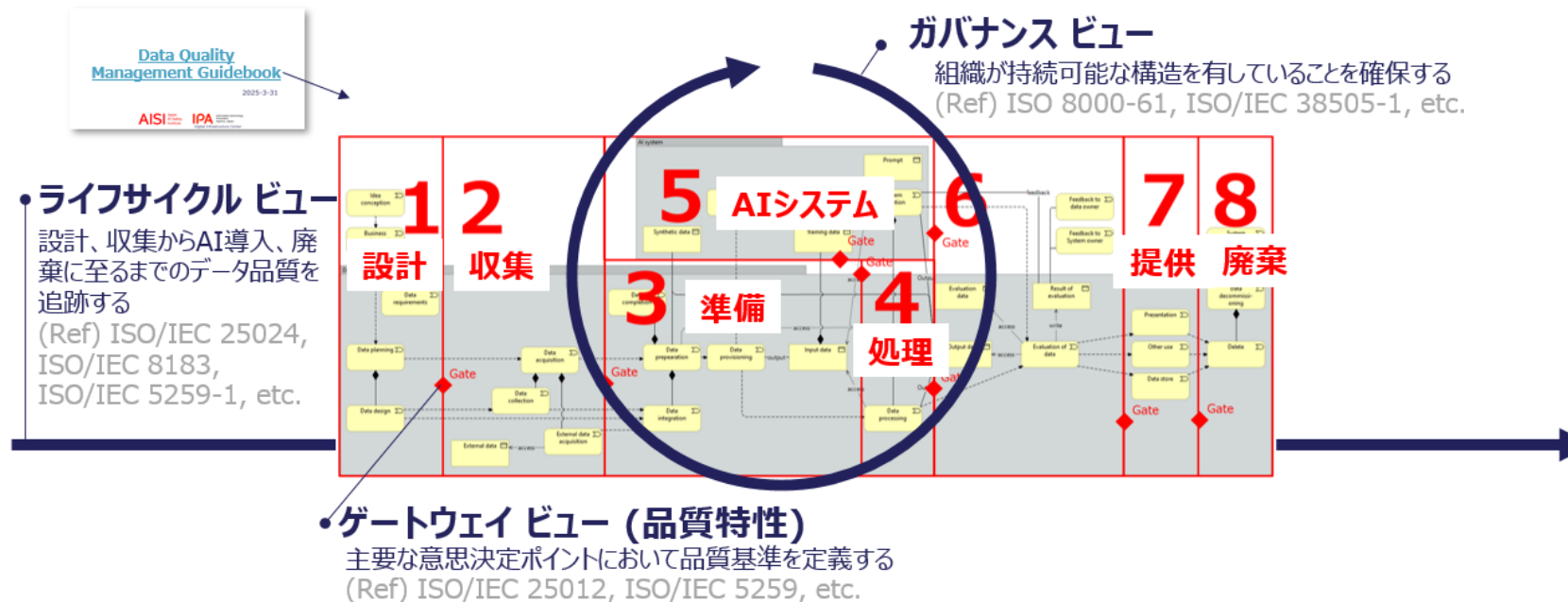
Hiroshima global Forum for Trustworthy AI

補足 データ品質マネジメントガイドブックの概要

データ品質マネジメントガイドブック

AISI Japan
AI Safety
Institute

- データ品質をライフサイクル、ゲートウェイ、ガバナンスの3つの視点から多角的に評価
- 多様なデータ品質の国際標準を実用的に適用容易なフレームワークに統合
- 今年度は軽微な改訂を実施（表現の見直しや、日本語・機械可読形式の用意等）
- 今後の改善の方向性として、解説書の作成、ユースケース特化、最新のAIの議論の反映等



補足 データ品質管理チェックリストの概要

データ品質管理チェックリスト

AISI Japan
AI Safety
Institute

- データ品質ガイドのデータライフサイクルをベースに、組織が自らのデータ品質の取組状況を網羅的かつ簡易に自己評価できるツールとして、推奨する確認事項一覧（チェックリスト）を策定
- 優先取組項目、実装例、リスク例、主たるデータ品質特性等も付随し、利用しやすい形を目指す

ガイドブック



チェックリスト

項目	確認事項	評価	取組状況	実施者	対象データ
データ計画	データ計画が策定されているか。	○	データ計画が策定されている。	AIシステム開発者	AIシステム開発に使用するデータ
データ取得	データ取得が適切に行われているか。	○	データ取得が適切に行われている。	AIシステム開発者	AIシステム開発に使用するデータ
データ準備	データ準備が適切に行われているか。	○	データ準備が適切に行われている。	AIシステム開発者	AIシステム開発に使用するデータ
データ処理	データ処理が適切に行われているか。	○	データ処理が適切に行われている。	AIシステム開発者	AIシステム開発に使用するデータ
データ提供	データ提供が適切に行われているか。	○	データ提供が適切に行われている。	AIシステム開発者	AIシステム開発に使用するデータ
データ廃棄	データ廃棄が適切に行われているか。	○	データ廃棄が適切に行われている。	AIシステム開発者	AIシステム開発に使用するデータ



- スプレッドシートベース
- データ品質管理の勘所を抑えた100問超の推奨するチェック項目
- 取組状況はライフサイクル別にレーダーチャートで参考として可視化
- 完全な順守を目的とするものではなく、認識を高め、実務者の支援が目的

No.
プロセス
推奨確認事項
優先事項
チェック
エビデンス
実施例
リスク例
主たる品質特性
実施者
対象データ
EUAI法該当箇所
AISI評価ツール該当箇所
備考

11

チェックリストはFY26 5月公開予定。

補足 AISI データ品質SWGの目的

データ品質SWGの活動の目的

AISI Japan
AI Safety
Institute

- “Garbage in, Garbage out”と言われるように、データ品質がAIの性能・セーフティの要である
- データが社内外で広く流通する時代において共通的なデータ品質管理の指針が求められる
- データ品質に関する標準類と実装現場を繋ぐ実務的なガイドやツールを整備する



AIセーフティに関する評価観点ガイド(AISI)においても、AIセーフティ評価の10観点のひとつに「データ品質」が挙げられている

7

2026年度の活動方針

AISI Japan
AI Safety
Institute

2025年度の成果を出発点として、実務適用性の向上と新たな利用形態への対応を両立しつつ、継続的な改善サイクルを回していく

- ◆ 適用検証の促進
 - 2025年度の成果を起点にして、SWG内外で適用検証を推進する
- ◆ 新たな利用形態への対応
 - マルチモーダルAI、Agentic AI、Physical AIなど利用形態拡大に応じたデータ品質管理を扱う
- ◆ ユースケースの明確化
 - データ流通時の品質表示、合成データの品質管理など特定のユースケースを深化する
- ◆ 実務サポート・ツール開発
 - 静的ドキュメントではなく実際に動くツールを検討する
- ◆ リビングドキュメントとしての最新化
 - SWG活動に連動して、ガイドブック等の更新や、フィードバックの受け皿を作る

15

データ利活用・データスペースガイドブック（AI利活用版）



概要	背景	データの活用先としてAIは筆頭の一つ（国連のグローバル・デジタル・コンパクトでの注目や、データマネジメントの観点等）。AI利活用を出発点とした情報は世の中に多く現れつつあるが、データ利活用を軸としつつデータスペースやAI利活用まで視野に入れたガイドブックは不十分である。
	内容	現状のデータ利活用・データスペースガイドブックのタスク等の要所において、データを軸としたAI利活用の際の考慮点や変更点を例示し、参考となる考え方や取り組み方を提示するよう改訂・追記する。（例：AIで用いるデータ特性に応じた対応、AIモデルへのデータの渡し方等） 今後は、各フェーズにおけるタスクのより詳細な解説を追加して内容の充実化をはかる。
アウトカム		当該ガイドブックの想定読者が、データやデータスペース利活用の際に、AIも合わせて利活用するケース特有の考慮点や変更点を理解・想像できるようになることを狙う。
成果物		データ利活用・データスペースガイドブック（AI利活用版）を公開。

補足 データ利活用・データスペースガイドブック (AI利活用版) 目次

目次

- 1 はじめに
- 2 目的と想定読者
 - 本ドキュメントの目的
 - 本ドキュメントの構成
 - 想定読者
- 3 データ利活用およびデータスペース利用の全体像

第1部 データ利用者編

- 第1章 経営戦略策定フェーズ
 - 1.1 会社のビジョン・方針策定
 - 1.2 データ活用のための組織整備
- 第2章 IT戦略・企画策定フェーズ
 - 2.1 データ利用企画
- 第3章 データ提供準備フェーズ
- 第4章 データ検索フェーズ
 - 4.1 データ検索
 - 4.2 データの認知、取得判断
- 第5章 契約フェーズ
 - 5.1 データスペースへの参加
 - 5.2 データ提供元との契約、締結

- 第6章 データ利用アプリケーション開発フェーズ
 - 6.1 データ計画と設計
 - 6.2 データスペース利用に必要な機能等実装
 - 6.3 データ利用のためのアプリケーション開発
 - 6.4 テスト
 - 6.5 本番稼働

- 第7章 運用フェーズ
 - 7.1 認証、データ取得リクエスト、認可
 - 7.2 開発したデータ利用アプリケーションの活用
 - 7.3 来歴確認

- 第8章 評価フェーズ
 - 8.1 事業活動の振り返り

第2部 データ提供者編

- 第9章 経営戦略策定フェーズ
 - 9.1 会社のビジョン・方針策定
 - 9.2 データ活用のための組織整備

- 第10章 IT戦略・企画策定フェーズ
 - 10.1 データ提供企画、利用条件の決定等

- 第11章 データ提供準備フェーズ
 - 11.1 データ計画と設計
 - 11.2 データ提供のためのアプリケーション開発
 - 11.3 提供データ等の用意

- 第12章 データ検索フェーズ
 - 12.1 データカタログ等にデータを公開

- 第13章 契約フェーズ
 - 13.1 データ利用者との契約、締結

- 第14章 データ利用アプリケーション開発フェーズ
 - 14.1 データスペース利用に必要な機能等実装
 - 14.2 認証・認可、データ提供

- 第15章 運用フェーズ
 - 15.1 認証・認可、データ提供
 - 15.2 来歴登録

- 第16章 評価フェーズ
 - 16.1 事業活動の振り返り

ポイント

AI・データ利活用・データスペースの3観点をバランスよく網羅するように改訂した。
IDSA、ISOといった団体から公開されているドキュメント等、個々の標準は存在するものの、横断的に編集している例はなく、本ドキュメントの特徴といえる。

補足 データ利活用・データスペースガイドブック (AI利活用版) CAIOの役割

表 1.2 CAIO の担うべき役割の例

No.	役割	役割の内容
1	AI 戦略の策定	経営層が発信する目指すべきビジョンを基に、経営層と合意を取りながら組織における AI の導入・活用方針を統括する。
2	AI ガバナンスの確立	AI によるデータの利用等に関するポリシーを策定する。
3	データ品質の向上	データの正確性、完全性、一貫性などに加えて、代表性や有効性といった、AI にとって重要な品質についても考慮する。
4	AI 活用の推進	生成 AI を用いた業務効率化や新規サービス開発を支援する。また、従来の DB で管理しきれなかった社内規定、議事録、画像等の非構造化データを、AI の知識源として利用可能な状態に整備・管理する。
5	セキュリティとリスク管理	プロンプトインジェクションや学習データ汚染などの AI 特有のリスクや、シャドー AI (許可なき AI 利用) への対策を行う。
6	組織全体の AI 文化の醸成	AI リテラシー (プロンプトエンジニアリング等) の教育を含め、組織全体として AI を活用できる文化を育てる。
7	AI インフラの整備	RAG やベクトルデータベースなど AI がデータを活用しやすい基盤を整備する。
8	データの利用目的の制限	CDO と同様
9	プライバシーの管理	CDO と同様
10	契約	CDO と同様

CDO/CAIO がこのような役割を実施することでデータの収集や分析が進み、データに基づいた結果をビジネス戦略に活用することができるようになる。これらのことを実践するために、データマネジメントが必要となる。データマネジメントに関する事項について、包括的に記載されている資料としては、DMBOK²が広く使われている。

詳しくは『「DX 実践手引書」4.4.2.データ活用を進めるために必要となる要素』に記載の内容を参照してほしい。

▼CAIO の役割としての評価観点の例

- ① AI 戦略の達成度
「コスト削減／品質向上／新サービス創出」などの目的に対しどの程度の成果を生み出したか評価する。
また、AI が生み出す価値がデータスペース連携により増幅したのか (自社単独との差分)、そして投資コストに見合うものであるかも評価する。
- ② AI ガバナンスの効果
外部 API 利用可否、機密データ投入可否、生成物の取り扱い、ログ保全等のルールが経営判断として明文化され、審査・例外承認・監査が機能しているかも評価する。
- ③ データ品質の状況
AI 特有の品質に加え、メタデータ、データ来歴、権利・同意、更新頻度、ラベル (教師データ) など、AI で扱う前提条件が満たされているかも評価する。
- ④ AI 活用の推進状況
モデルの精度・品質の継続監視 (劣化の兆候)、現場フィードバックを改善に戻す体制が回っているかも確認する。
- ⑤ セキュリティとリスク管理の状況
プロンプト経由の情報漏洩、権限の過大付与、ログ取り扱い不備、プロンプトインジェクション等の AI 特有リスクも含めて評価する。
- ⑥ 組織全体の AI 文化の浸透度
組織全体に、AI を活用する文化および AI の適切な利用 (機密・著作権配慮、ルール遵守等) が定着しているかも評価する。
- ⑦ AI インフラの有効性
AI 活用基盤の整備などが計画通り進んでいるか、またインフラのパフォーマンスが適切かなどを評価する。
- ⑧ データ使用目的の制限の状況
CDO と同様。
- ⑨ プライバシー管理の状況
CDO と同様。
- ⑩ 契約内容の状況
CDO と同様。

ポイント

今回の改訂では AISI と連携し、データ利活用・AI 利活用実現に向けたエッセンスを盛り込んでいる。
なお、AISI から公開している Chief AI Officer (CAIO) ガイドブック (案) は [こちら](#) から。

急速な AI 普及に伴い、データ戦略と AI 戦略は不可分なものとなっている。そのため、CDO と CAIO (Chief AI Officer: 最高 AI 責任者) が密接に連携する体制を確立することが推奨される。左図は CAIO の担うべき役割の例をまとめた表、右図は CAIO の評価観点の例である。

概要

背景

データモデルやルールを体系化し標準化して、様々な分野へ広げていくため、活用が見込まれる分野に向けた活動を行うとともに、既存ドキュメントや実装データモデルの拡充が求められている。また、AIの発展により、セマンティック前提の標準体系化フレームワークが必要となってきた。

内容

GIFの拡充、実装データモデルやクラス図作成、データ辞書、海外調査等デジタル庁業務の実施。各分野関係者とのデータモデル整備に向けた準備と、データモデルWG、標準規格WGの実施。今後はReady for AIのため、マシンリーダブルなフレームワークを目指す。

アウトカム

ドキュメント（データ項目辞書、実装データモデル、ガイドブック等）の充実により、標準に基づくデータモデルの設計・実装を行いやすくなった。

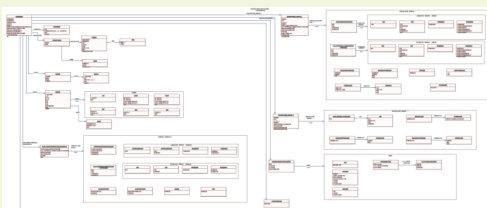
成果物

データ項目辞書、教育・防災の実装データモデル、海外データ標準戦略調査結果 ※デジタル庁スマートシティリファレンスアーキテクチャ（内閣府協力）、実践ガイドブック等Markdown整備

（デジタル庁連携）

上期：教育データモデル

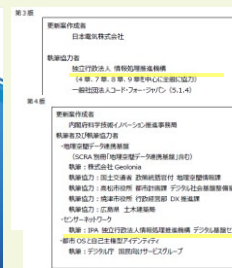
下期：データ項目辞書、防災データモデル
海外データ標準戦略調査



（IPA事業）

SCRA執筆協力（内閣府協力）
機械判読前提とした整備

- ・ドキュメントのMarkdown化
- ・機械判読可能なUMLクラス図整備



（今後に向けた事業）

マシンリーダブルなフレームワーク に向け
データモデルWGの実施：統制語彙
標準規格WGの実施：データ辞書



今後の目標

セマンティックな
URI統合・リンクと自動的意味解釈ができる
AI前提の意味的マシンリーダブル整備

概要

背景

内容

日本語によるAI利活用には、データ辞書/知識基盤の整備が不可欠である。また、同じ項目のデータでもフォーマットや表現等が国によって異なる。これは、機械判読可能で構造化された情報として整理しない場合、AIの意味理解や情報検索の精度が低下し、実用的な活用が困難になるためである。したがって、データ品質の向上、各国言語との相互運用性の確保に向けて、データ辞書/知識基盤の整備が急務である。

- ・ 海外語彙モデル（SEMIC/NIEM/Schema.orgなど）との整合性確保。
- ・ 関連語(同義語、同意語、類似語)の辞書：ipadicの言葉の揺らぎの整備。
※項目説明においては、ISO/IEC11179-4（用語選択・文法・意味論に関する必須／推奨ルール）などを適用させるなどの整備を予定。

アウトカム (FY26予定)

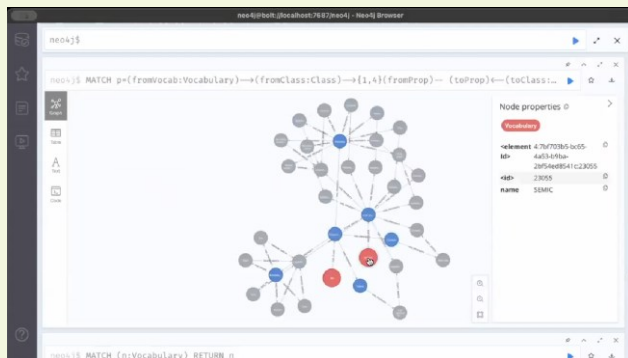
- ・ 日本語版オントロジーを作成するための基盤整備を推進。
- ・ 同義語、類似語に係るJSON形式の学習データ（動詞・形容詞・名詞といった日本語と、それらの詳細な説明）を拡充。
- ・ オープンな日本語辞書データの利活用の容易化。
- ・ 国際的なデータの相互運用性の実現に寄与。
- ・ ナレッジグラフの整備に向け、合意形成のための普及展開の促進を狙う。

成果物 (FY26公開予定)

- ・ ipadic、同義語類義語に対応した辞書の整備（IPALのJSON化含む）
- ・ ナレッジグラフの作成と可視化の検討（Neo4JなどのグラフDBによる可視化）

オントロジー整備に向けたデータ辞書調査報告を基に下記の整備と検討を実施し、報告書を公開予定。

- ・ オントロジーの整備のための検討調整（海外語彙モデルへの整合やipadicの整備検討）
- ・ オントロジーの可視化のためのナレッジグラフ作成と可視化の検討（グラフDB表記への対応検討。）
→機械判読可能な情報にて、データおよびAI利活用を促進する。



ナレッジグラフ作成と可視化の検討（Neo4JなどのグラフDBによる可視化）

```
{
  "entry_id": "0010100",
  "lemma": "あおい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 1,
  "sense_count": 6,
  "syntax_coun": 6,
  "entry_id": "0010200",
  "lemma": "あおい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 2,
  "sense_count": 6,
  "syntax_coun": 6,
  "entry_id": "0010300",
  "lemma": "あおい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 3,
  "sense_count": 6,
  "syntax_coun": 6,
  "entry_id": "0010400",
  "lemma": "あおい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 4,
  "sense_count": 6,
  "syntax_coun": 6,
  "entry_id": "0010500",
  "lemma": "あおい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 5,
  "sense_count": 6,
  "syntax_coun": 6,
  "entry_id": "0010600",
  "lemma": "あおい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 6,
  "sense_count": 6,
  "syntax_coun": 6,
  "entry_id": "0020100",
  "lemma": "あかい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 1,
  "sense_count": 1,
  "syntax_coun": 1,
  "entry_id": "0030100",
  "lemma": "あかるい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 1,
  "sense_count": 8,
  "syntax_coun": 8,
  "entry_id": "0030200",
  "lemma": "あかるい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 2,
  "sense_count": 8,
  "syntax_coun": 8,
  "entry_id": "0030300",
  "lemma": "あかるい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 3,
  "sense_count": 8,
  "syntax_coun": 8,
  "entry_id": "0030400",
  "lemma": "あかるい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 4,
  "sense_count": 8,
  "syntax_coun": 8,
  "entry_id": "0030500",
  "lemma": "あかるい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 5,
  "sense_count": 8,
  "syntax_coun": 8,
  "entry_id": "0030600",
  "lemma": "あかるい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 6,
  "sense_count": 8,
  "syntax_coun": 8,
  "entry_id": "0030700",
  "lemma": "あかるい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 7,
  "sense_count": 8,
  "syntax_coun": 8,
  "entry_id": "0030800",
  "lemma": "あかるい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 8,
  "sense_count": 8,
  "syntax_coun": 8,
  "entry_id": "0040100",
  "lemma": "あさい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 1,
  "sense_count": 6,
  "syntax_coun": 6,
  "entry_id": "0040200",
  "lemma": "あさい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 2,
  "sense_count": 6,
  "syntax_coun": 6,
  "entry_id": "0040300",
  "lemma": "あさい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 3,
  "sense_count": 6,
  "syntax_coun": 6,
  "entry_id": "0040400",
  "lemma": "あさい",
  "homonym_idx": 1,
  "sense_id": 4,
  "sense_count": 6,
  "syntax_coun": 6
}
```

ipadicの整備（IPALのJSON化）
-同義語同意語類似語の整備のためにIPALをJSON化

普及展開状況



概要	背景	日本においては「データスペース」に関する情報発信は増えつつあるものの、いまだ一般的に十分に知られている状態とはいえない。そこで動向や技術関連情報を国内外に向け発信し、認知を広める活動が必要である。ただし、IMD等の関連ランキングでは依然として日本は低い傾向があり、適切な相手に情報を届けるため適切なチャンネルやアプローチを見極める必要がある。
	内容	情報発信媒体・機会を分析し、アプローチ先を明確にする。その際フレームワーク等を利用し、ペルソナとアプローチのチャンネルを整理・定義する。FY25はFY26以降継続的に観測するための基準を定める。
アウトカム		<ul style="list-style-type: none">データ相互運用性やインターオペラビリティフレームワークのキーワードをイベント聴講者へ周知した。複数の講演での情報発信に加え、総括としてデータ未来会議にて146名の参加者に当グループの活動を発信し、参加者がデータスペースに関する最新動向や今後の展望を認識する機会を得た。データ未来会議の開催を通じて東大・DSA・JDMC等との継続的な連携や強化が図られた。
成果物		各種講演資料 ※ただし、公開非公開はイベントに依存

講演・出展実績

- ・CEATEC（10/14～17 幕張メッセ）
- ・関西オープンフォーラム（11/7～8 ATC大阪）
- ・Next Smart City 2025 Winter（12/5 TIS豊洲）
- ・大塚商会 AIを活用した中小企業の業務効率化セミナー（12/23～3月末 オンライン公開）
- ・大塚商会 実践ソリューションフェア（2/5 ザ・プリンスパークタワー東京、2/19グランキューブ大阪）

補足 普及展開状況 講演・出展等実績



イベント名	開催期間	主催	場所
Fit2025 (第24回情報科学技術フォーラム)	2025年9月3日(水)～9月5日(金)	一般社団法人電子情報通信学会、 情報・システムソサイエティ(ISS)、 ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)	北海道科学大学
CEATEC2025	2025年10月14日(火)～10月17日(金)	一般社団法人 電子情報技術産業協会	幕張メッセ
AIを活用した中小企業の業務効率化セミナー	2025年12月～2026年3月末	大塚商会	オンラインのみ
関西オープンフォーラム	2025年11月7日(金)～11月8日(土)	ボランティア	大阪南港
DXソリューションフェア In KAMISU	2025年11月26日(水)	茨城県	アートホテル鹿島セントラル
Next Smart City 2025 Winter	2025年12月5日(金)	コードフォージャパン	TIS豊洲
中部DX推進コミュニティ(データ活用)	2025年12月5日(金)	中部経済産業局	名古屋工業大学
Hiroshima Global Forum for Trustworthy AI	2026年1月15日(木)～16日(金)	AISI、内閣府	グランドプリンスホテル広島
大塚商会実践ソリューションフェア2026	東京: 2026年2月5日(木) 大阪: 2026年2月19日(木)	大塚商会	東京大阪両会場
IOFDS	2026年3月3日(火)～3月5日(木)	IOFDS	ルクセンブルク
JDMC2026	2026年3月11日(水)	JDMC	新宿京王プラザホテル ※IPAはオンデマンドでの配信
第3回データ未来会議	2026年3月18日(水)	IPA、DSA	ベルサール九段

IPA